

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	14S3061	院生氏名	松岡 文三
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	脳卒中後片麻痺患者における深部静脈血栓症に対する各理学的予防法が麻痺側下肢静脈還流に与える影響		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、脳卒中後片麻痺患者における深部静脈血栓症に対する各理学的予防法が麻痺側下肢静脈還流に与える影響について検証することを目的としている。研究1では、脳卒中後片麻痺患者17名を対象に、超音波画像診断装置とレーザー組織血液酸素モニターを用いて、麻痺側下肢への間欠的空気圧治療と弾性ストッキングが麻痺側下肢静脈還流へ与える影響を検証した。その結果、麻痺側下肢への間欠的空気圧治療と弾性ストッキングは、麻痺側下肢静脈還流を増加させないことを明らかにした。研究2では、脳卒中後片麻痺患者19名に対して背臥位および車いす座位での非麻痺側足関節自動運動を2種類の運動速度で行わせ、研究1と同様な評価手法で麻痺側下肢静脈還流へ与える影響を検証した。その結果、非麻痺側足関節自動運動は2種類の運動速度でともに麻痺側下肢静脈還流を増加させ、そして麻痺側下肢静脈還流は、車いす座位より背臥位で大きくなることを明らかにした。</p> <p>2) 研究方法、論証、論文形式の適切さ</p> <p>本研究は、著者の所属施設および協力施設の倫理審査委員会の承諾と国際医療福祉大学倫理審査委員会の内諾を得て実施している。各理学的予防法の効果については、客観的な評価手法を用いた前後比較デザインで検証されており、その内容は四章に渡って適切にまとめられていた。</p> <p>3) 知見の新規性と価値</p> <p>本研究の新規性は、脳卒中片麻痺患者を対象に、理学的予防法の麻痺側下肢静脈還流への効果を示したことである。基礎的な研究であるが、非麻痺側足関節自動運動が麻痺側の深部静脈血栓予防の一手段となり得る可能性を示した研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査会は2回開催し、研究の意義、計測方法の記述不足、結果の表現方法、研究の限界に関する加筆修正を求めたところ、適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問において適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査員全員は、本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 金子 秀雄</p> <p>副 査 久保 晃</p> <p>副 査 前新 直志</p>		